



活動報告書

「トゲソ(イバラトミヨ)の保護報告書作成とトゲソ観察会・講演会の実施」

五泉トゲソを守る会

トゲソは正式名「イバラトミヨ」の五泉地域の地方名である。イバラトミヨは、北は北海道から、南は日本海側では新潟県、太平洋側では青森県まで分布している。

日本海側では、秋田県の雄物川水系、山形県の最上川水系に分布しているが、新潟県内に生息するイバラトミヨは淡水型とされ、その分布は、中条町胎内川河口域および五泉市早出川流域の湧水地の2ヶ所である(下図参照)。五泉のトゲソは日本の南限と考えられている。

なお、イバラトミヨは「レッドブックにいがた」で、絶滅危惧・類にランクされている貴重種である。五泉トゲソを守る会は、1997年に発足し、トゲソの増殖活動や保護池(五泉市土堀)の造成などの活動、春先には小規模な観察会や勉強会を行ってきた。

活動報告書から抜粋して活動内容等を報告します。

〔トゲソの保護報告書の作成〕

注：申請時の計画では、パンフレットの作成であったが、助成額の関係で報告書の作成に変更した。

(目的)

イバラトミヨを保護するための資料となる生息分布調査、生息地水質調査結果などをまとめ、保護パンフレット作成にあたっての基礎資料とする。

〔調査結果など〕

- ・ 調査22地点のうち、既存の生息地2地点を含めて9地点(合計個体数400～410)に分布域が広まったが、半数の地点は個体数も僅少で絶滅寸前の状態である。
- ・ 今回の生息分布調査で、イバラトミヨのほかにマルタニシ、マツカサガイ、マシジミ、タイコウチ、スナヤツメ、カワヤツメ、ホトケドジョウ、メダカ、バイカモ、ミクリなどの貴重種が確認された。
- ・ 生息地(土堀)でpH、DO、COD、電気伝導度、硝酸態窒素、アンモニア態窒素等を測定し、季節による変化を調べた。
- ・ トゲソの生息地清掃、保護池の改修、水路の泥上げなどの作業を行った。

〔トゲソの現地観察会および講演会〕

平成14年4月21日(日)

第6回トゲソ観察会&講演会

「春の野草つみとトゲソの観察会&講演会」 参加者：70名

◇ 現地観察会(午前) 実施場所：トゲソ生息地(五泉市土堀)

9:30 受付開始

10:00 トゲソ生息地へ移動

10:15～11:30 トゲソ・水生昆虫観察と野草つみ

11:30～12:30 野外昼食

◇ 講演会 等 (午後) 実施場所：五泉市図書館 小ホール

13:00～14:30 講演会 講師：中村 幸弘 (上越市水族館館長)

14:40～14:55 活動報告(調査報告) 齊藤 晃 (五泉トゲソを守る会)

14:55～16:20 パネルディスカッション

パネラー：中村幸弘、坂下 諭(阿賀川・川の達人の会副会長)

樋口正仁(トゲウオ研究家)、トゲソを守る会など

【今後の課題】

今回の調査により、イバラトミヨの生息状況の概況が把握でき、今後の保護活動の基礎的データの収集ができた。イバラトミヨの生息地は9地点に広がったが、その半数の地点は生息状況が悪かったり、上下流への移動が不可能な孤立した状態が多かった。五泉トゲソを守る会では、これまで主要生息地において保護池を造成して増殖活動を行ったり、学校とタイアップして増殖活動や観察会を行ってきたが、今後は、これらの活動と並行して各生息地点間のイバラトミヨが交流できるよう面的保全を視野に入れた活動を計画し、実施していきたい。また、イバラトミヨの繁殖には未解明の部分が多いことから、繁殖についての研究(巣を作る位置、水温、稚魚の成育場所の環境、餌など)も進めていきたい。



イバラトミヨの分布 (東北地方)

出典：トゲウオのいる川 (1997：森誠一、中公新書)

[閉じる]